７．多機能スタジアム　（にぎわいエリア）

●背景・課題

・　多機能スタジアムは、スポーツ試合だけでなく各種イベント等の場となることで、賑わいを生む集客拠点としてまちの活性化に効果をもたらすものである。

・　いわき市及び双葉郡町村をホームタウンとするプロサッカーチーム「いわきＦＣ」は 2022 年からのＪ３昇格を決めた。Ｊリーグにはホームスタジアムに関し規模や設備等に関する基準があり、現状でいわき市内に基準を満たすスタジアムがなく、「いわきＦＣ」は広野町のＪビレッジスタジアムを本拠地としている。

・　「いわきＦＣ」のＪ１までの昇格への期待に対し、基準を満たすホームスタジアムとなる施設の整備は全市的課題であるが、小名浜では港湾区域や工業用地等を含め土地の確保の可能性がある。

●目標・方向性

様々な機能を併せ持つサッカースタジアムを小名浜地区に誘致することで、賑わいの核とするとともに、「いわきＦＣ」のホームタウンの中心として小名浜地区住民の誇りとするとともに、多様な経済波及効果をもたらすことを目指す。

●計画内容

★いわきＦＣ応援による機運の醸成

・　「いわきＦＣ」を我がまちのサッカーチームとして皆で愛する機運を高めていく。そのための応援イベントやファンを増やす活動を展開する。

・　「いわきＦＣ」のサポーターやチーム関係者との連携を強化し、誘致に向けた機運を高める。

・　これにより、スタジアムを整備した際の目標を超える観客数の確保につなげる。

★スタジアム整備のビジョンづくり

・　サッカーチームやスタジアムに関する各種情報を収集し、地区としての誘致に向けたビジョンを策定する。

・　他チームのホームタウンでの運営形態など各種情報を収集し、建設手法等を検討する。

★多機能型スタジアムの建設

・　地元としてのビジョンの提示を通じ、行政など各方面への働きかけにより、小名浜への多機能型スタジアムの誘致を実現させる。

・　多機能型スタジアムの建設により、そこでの集客効果をまちの活性化に活かせるような活動を展開していく。

●役割分担・行動

市民会議のアクション	・機運を高めるための応援活動を主導、広報活動 ・「いわきＦＣ」サポーターやチーム関係者との連携 ・各種情報収集や調査、誘致に向けたビジョン策定の中心的役割
民間・一般市民	・「いわきＦＣ」応援による我がまちのチームとしての機運醸成 ・誘致活動への多方面の協力
行政への要望	・スタジアム建設についての検討 ・そのための協働による情報収集や調査活動

●タイムテーブル

実施項目	実施主体			実施時期		
	市民	民間	行政	短期 （～５年後）	中期 （5～10 年）	長期 （10 年後～）
★いわきＦＣ応援による機運の醸成	○	○	○	○	○	○
★スタジアム整備のビジョンづくり	○	○	○	○		
★多機能型スタジアムの建設	○	○	○		○	

※「市民」＝主に市民会議

スタジアムのイメージ

８．大型客船　（にぎわいエリア）

●背景・課題

・　大型客船（クルーズ船）は、消費力を持った観光客が利用し、その寄港は、一度に多くの観光客が訪れることで多大な経済効果があると言われている。

・　小名浜港は市街地に近い埠頭を有し、アクアマリンパークには拠点的な観光施設があることから、その寄港地としての条件を備えており、これまでにも「飛鳥Ⅱ」などのクルーズ船の寄港を実現させた実績がある。

・　小名浜マリンブリッジの架橋によって埠頭の条件が変化したことで、寄港のための埠頭機能の整備が必要であるとともに、寄港地として選ばれるための魅力の向上への努力が必要である。

●目標・方向性

これまでの寄港実績も活かしながら、小名浜港への大型客船の寄港を誘致するため、港湾における条件整備を進めるとともに、寄港地としての魅力を高めるソフト面の活動や情報発信などに努め、経済効果、交流拡大などにつなげていく。

●計画内容

★クルーズ船の寄港誘致

・　クルーズ船の小名浜港への寄港をする誘致団体を官民一体で設立し、様々な誘致活動を展開する。

・　クルーズ航路の魅力を高めるため、太平洋側の各港湾との間での連携を強化する。

・　これらの活動により寄港実績を高め、さらなる大型客船の寄港誘致に向けた条件整備の機運を高めていく。

★大型客船寄港のための条件整備

・　10 万ｔ程度の大型クルーズ船の寄港、スムーズな着船ができる大規模岸壁の整備、及び港湾水域内の航路の確保を促進する。

★小名浜港の魅力づくりと発信

・　寄港するクルーズ船の観光客に小名浜の魅力を知ってもらうための材料づくりとその磨き上げを進める。

・　アクアマリンパーク内各施設やまちなかや周辺の各事業者等に、魅力ある小名浜らしい商品やサービス、周遊コース等の開発を働きかけるとともに、県内他地区の観光拠点との連携も強化する。

・　特に、小名浜ならではの食、歴史、文化の再発見とその情報発信に努める。

●役割分担・行動

市民会議のアクション	・誘致団体設立、誘致活動の中心的役割、港湾間連携の中心主体 ・観光資源など魅力材料づくりの企画や民間事業者等への働きかけ ・港湾機能整備について行政への働きかけ
民間・一般市民	・誘致団体による誘致活動、港湾間連携への協力 ・観光資源などの魅力材料づくりと磨き上げ（商品開発等）
行政への要望	・港湾施設の整備 ・誘致団体設立及び誘致活動（協働） ・観光資源開発、港湾間連携等への支援

●タイムテーブル

実施項目	実施主体			実施時期		
	市民	民間	行政	短期（～５年後）	中期（5～10 年）	長期（10 年後～）
★クルーズ船の寄港誘致	○	○	○	○	○	○
★大型客船寄港のための条件整備			○	○	○	○
★小名浜港の魅力づくりと発信	○	○	○	○	○	○

※「市民」＝主に市民会議

停泊中の飛鳥Ⅱ（写真上）と
海王丸（写真下）
（写真提供:いわき市）